



富山県環境保健衛生連



県連HP

第26号

発行日 令和5年10月31日
発行者 富山県環境保健衛生連合会 会長 五十嵐 務

題字 五十嵐 務

第66回 富山県環境保健衛生連合会定期総会

令和5年度 第66回 定期総会開かる

会長挨拶

第66回定期総会は、令和5年5月17日（水）午後1時30分より富山市の「サンフオルテホール」で開催された。吉田副会長の開会宣言のあと五十嵐会長からの挨拶があり、次いで富山県知事（代理有賀厚生部長）からの祝辞があった。

来賓紹介のあと、アルビス株式会社代表取締役社長池田和男氏より「アルビスの環境への取り組みについて」の講話があった。「別掲」

次いで議事に入り、定数確認のあと五十嵐会長が議長となって第1号議案 令和4年度事業報告並びに収支決算報告・会計監査報告第2号議案 令和5年度事業計画（案）並びに収支予算（案）が提案され、原案通り承認された。次に第3号議案 第68回富山県環境保健衛生大会を魚津市で開催することが決定された。また、令和5年度の役員が承認された後、林副会長の閉会の挨拶があり、すべて終了した。



富山県環境保健衛生連合会では、従来から環境衛生と保健衛生の問題に取り組んでおります。環境衛生の面では、今年度の新規事項として、ごみ拾いをスポーツとして行う「スポGOMI」の推進を行うこととしております。9月に射水市で実施予定の環境巡視員等研修会県西部においても昨年の岩瀬浜での実施に引き続き「スポGOMI」の体験研修を行う予定です。

食品ロス削減にも取り組んでおりますが、新規事項としてスーパー等で買い物をする時に「すぐ食べるなら、手前にある商品を選ぶ」という「てまえどり」の推進に取り組むこととしております。是非、「てまえどり」の普及推進にご協力をお願いします。

健康面の取り組みでは、「人生100年時代に向けて」、「要介護（フレイル）予防」の推進を引き続き取り組みたいと思っております。その一環として、富山県の健康課題である野菜の摂取量についてアルビスさんのご協力を得て、野菜の摂取量を測ることのできる「ベジチェック」という機械の体験研修会も行いたいと思っております。

今、環境面・健康面の多くの課題が山積しておりますが、その取り組みを県民一人一人が会員となっております我々の連合会が組織をあげて取り組んでいくことによって、日本一の環境先端県、健康寿命日本一を目指すことができるのではないかなと思っております。

どうか皆様方のご協力を得て、我々の住んでいる大事なふるさと富山がそして、県民一人一人が本当に元気で暮らせる、健康で暮らせる県を目指して参ります。

講話 アルビスの環境と健康への取り組みについて

講師 代表取締役社長 池田 和男様



I 会社概要

社名 アルビス株式会社
設立 1968年12月
従業員数 連結4577名
(正社員997名・パート
タイマー3580名)

事業内容 食品小売業
店舗数 66店舗
株式会社アルデジャパン
アルビスクリーンサポート株式会社
(食品製造事業・惣菜、精肉加工、豆腐)
(リサイクル・清掃業)

企業理念 食を通じて地域の皆様の健康で豊かな生活(くらし)に貢献します。

II 環境保全活動の強化

2022年4月に「プラスチック資源循環促進法」が施工され、3R+Renewableが基本原則になったことから、これまで進めてきた3Rに加え+Renewable政策にも取り組み循環型社会の強化を目指す。

- Reduce (リデュース)…… 廃棄物の発生抑制
- Reuse (リユース)…… 再使用
- Recycle (リサイクル)…… 再資源化
- Renewable (リニューアブル)…… 再生可能

1 具体的な取り組み(3R)

- ①リデュース(使う資源やごみの量を減らす)
・マイバッグ・マイバスケット持参の推進
(2009年6月から全店でレジ袋無料配布を廃止)
- ・食品ロス削減への取り組み
○購入して直ぐに食べる場合、消費期限が迫った食品や商品棚の手前から購入の呼びかけ
○毎月30日と15日は、「ご家庭の食品ロス削減の啓発活動を実施」
- 需要予測による適正な納品で、商品のムダや食品廃棄物の発生抑制
- ご家庭で使いきれない食品を集め、必要とされる方へ届けるフードドライブを富山県と連携し2020年10月から実施



「リレーフードドライブキャンペーン」と銘打ち、地域の

方がフードドライブに参加できるよう、各地域の店舗をリレー形式でつなぐ。

現在では、フードドライブの活動の輪が広がり、社会福祉協議会、NPO法人、小中学校、異業種と絡み合う機会が増える。



初となる富山県内初の常設無人ボックスをパスコ店に設置

②リサイクル(原材料・エネルギーとして再利用)

- 各店舗でペットボトル空き缶牛乳パックを回収し再資源化
- 2022年12月からペットボトルキャップの回収を再開し、パレット(荷役台)に再利用
- 食品トレーを回収し再資源化する活動を30年継続実施
- リサイクル工場でエコトレイとして再生されたトレーを店舗で積極的に使用・年間567tのCO₂排出削減の効果
- リサイクル(資源として再利用)
海産物や青果物の流通容器として使用している発泡スチロール箱を自社で再資源化加工し断熱材に再利用
- 廃油、魚腸骨残渣、肉脂、ダンボールを回収
- 魚腸骨の固形分は乾燥させ肥料飼料として再利用
- リニューアブル(再生可能な資源に変える)
- ③プラスチック資源循環促進法施行に伴い、海洋プラスチックごみ問題への強化策として、二度の使用でごみになる、プラスチック製のレジ袋とスプーンのバイオマス配合量を増加
- プラスチック製ストローは紙製に、紙製包装容器は段階的に導入

2

CO₂削減に向けた取り組み

- ①店舗に電気使用量がリアルタイムで確認できるデマンド監視装置を設置
- ②店内照明や看板照明にLED照明を採用して消費電力を削減し節電によるCO₂排出量削減に取り組む
蛍光灯からLED照明の変更に伴い、一店舗約4200千円/年の電気料削減
- ③美濃加茂店(岐阜県美濃加茂市)に太陽パネルを設置し再生可能エネルギーを導入、順次設置予定。太陽光発電により、4800千円/年の電気料削減
- 脱炭素温室効果ガス排出量ゼロにも取り組みを開始
- ①2020年10月26日、菅総理大臣(当時)が温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロとする目標を宣言
- ②2021年4月22日からの気候変動サミットで、2030年に46%削減(2013年度比目標を宣言)

当社も今期よりGHG排出量削減計画策定に着手 ※GHGとは、温室ガス(Greenhouse Gas)の略称。

III 健康への取り組み

経営ビジョン「人生100年時代」
人に近づき、寄り添うスーパーマーケットづくり

1 食と栄養の現状
低栄養傾向の65歳以上の高齢者の割合 男性10.3% 女性20.3%(増加傾向)

2 人生100年時代に向けた概念
「アルビスにかかわる人の健康寿命を10年延ばす」

3 健康を支える売り場づくり
健康な生活習慣の重要性に対して関心と理解を深め、自らの健康状態を自覚できるように健康増進に関する正しい知識の普及・情報発信を行う。

健康商品コーナー化してわかりやすい売り場に
6月から羽根店と高原町店に、推奨野菜摂取量がチェックできるベジチェック®を設置



健康商品コーナー化してわかりやすい売り場に



6月から羽根店と高原町店に、推奨野菜摂取量がチェックできるベジチェック®を設置

4 その他「減塩教室」、「乳酸菌で健康に教室」
健康を支える商品づくり
高齢者・働く女性・健康にこだわりのある顧客に向け、化学調味料・保存料を使用しない食品、野菜摂取、減塩に配慮した惣菜の提供(自社工場製造)



減塩対策として「オリジナルだし」を使用した惣菜



野菜不足を解消する「野菜デリ」・「蒸し野菜」・「有機野菜」

5 食生活の改善を意識した健康弁当の開発

- 1食20キロカロリー以下でヘルシー
- 野菜の摂取量・1日必要摂取量の1/2以上(約15g)
- タンパク質・魚肉たまごをバランスよく
- 青いバナナ(腸活におすすめ)
- 熟していない青いバナナは、食物繊維のひとつである難消化性でんぷん(レジスタントスターチ)やカリウム・糖質・ビタミン類(葉酸・ビタミンB1・B3・B6)・ポリフェノールなど黄色いバナナより高い栄養がある。



第3回青少年環境学習会

国立立山青少年自然の家の協力を得、重点事項の「富山湾の環境保全」の取り組みの一環として、次のねらいで実施した。

①大型河川の成り立ちや、河川と人との関わりを学び、森・川・海・人のつながりについて体験を通して理解する。

②川原や海岸に落ちているごみについて調査する活動を通して、水の環境に関わるごみ問題について知識を深める。

期日 令和5年9月2日(土)～3日(日) 1泊2日
参加者 小学校5・6年生 12名
共催 国立立山青少年自然の家

【一日目】

①開講式 立山青少年自然の家

②自然の家近くの沢で、生き物や自然の観察

③常願寺川中流域(岩峠寺)での生き物観察やごみの状況観察

④常願寺川河口でのごみの状況観察

⑤岩瀬浜でのマイクロプラスチック回収体験

【二日目】

①ふりかえり、「大漁旗作り」。

2日間の活動を通して、学んだことこれからの行動についての思いを基に大漁旗づくり

【活動を終えての感想】

・常願寺川の中流で川の流
れの中には、カワゲラ類
やヘビトンボなど清流に
すむ生き物がいた。でも、
ごみなどが落ちていて、
川が汚くなってしまいうか
らごみを落としてほしく
ないと思った。

・岩瀬浜にはたくさんのご
みがあった。見た目はき
れいな砂浜もマイクロプ
ラスチックがたくさんあ
った。

・海に出たら圧倒的にごみ
が増えた。人がたくさん



大漁旗づくり、マイクロプラスチック回収、上流・前谷での生き物観察、完成した大漁旗、ごみを前に記念写真、中流での生き物・ごみ観察

いそうな場所に多くて、ペットボトル、空き缶、釣りをした人が置いて行ったものなどたくさんあった。ごみ拾いをしたい。ごみを捨てないように声をかけるのも大事だと思った。

令和5年度健康部会報告

日時 令和5年7月24日(月) 10時～13時半
場所 アルビス本社 アルビス羽根店
参加者 29名
テーマ 「アルビスの健康と環境の取り組みを研修し、今後の活動に生かす」

講師 「アルビスの健康と環境の取り組み」
講師 池田和男社長
講師 森由佳子 経営企画本部ブランド推進部長

内容 **野菜をもう1皿たべて生活習慣病を防ぐ**
開会前にベジチェック体験コーナーで参加者自ら測定してみた。この「ベジチェック」とは、手のひらをセンサーに約30秒あてて野菜の摂取量を測定する機器で、7以上は1日の摂取量350g以上の摂取、5以下は摂取量が不足していることになる。野菜を十分とっているから7以上と思いきや意外と数値が低かったとガッカリした参加者もいて、まだまだ摂取量が不足していると感じた。

ちなみに野菜の摂取量は350g以上とされているが、県では約100g不足とのこと。100gはトマト半分、キャベツ1枚分とわずかだ。
野菜は高血圧予防や免疫力向上に効果があることから、アルビスでは野菜不足を解消するため毎日350gの野菜を食べようと「らくベジ350」運動に積極的に取り組んでいる。

開会後、アルビスの沿革、経営理念と「健康寿命を10年延ばす」健康への取り組み等の講話の後、隣接の加工工場では化学調味料、保存料を使っていない惣菜と精肉の製造過程を視察。その後本社にもどり、健康弁当と青バナナを試食した。この弁当は、500キロカロリー以下、野菜摂取量350gの半分以上、タンパク質がバランスよく入って



いて毎日食べても飽きないという。また、青バナナは、熟したバナナよりカリウム、ビタミン類等の栄養価が高いことから推奨している。ともに美味しく頂いた。
午後からアルビス羽根店に移動し、ベジチェックコーナーを視察し、野菜350gの購入体験。各自野菜を取り、はかりで計って、買い物かごに入れ、350g程になったら会計へということだが、野菜2、3個ですぐオーバーしたり、足りなかったりと意外と手こずった。

他に、手まぜどりの表示、地産地消、プラスチック回収等店内の環境への取り組みも視察した。
※ベジチェック体験コーナーは現在、富山市のアルビス羽根店、高原店、大久保店、射水市の大島店、高岡市姫野店で常設中、一般の方も自由に測定体験ができる。

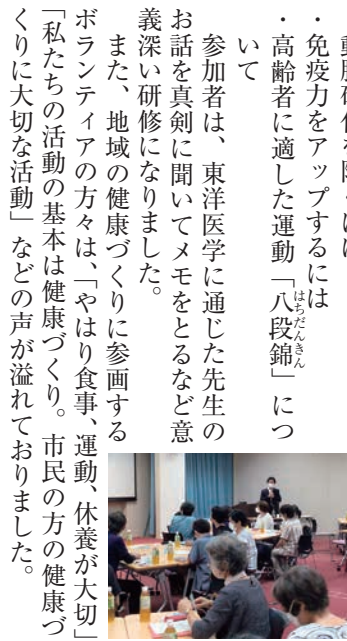
出前健康講座 (砺波市環境保健衛生協議会)
県連合会では、希望される地区に出向いて「出前健康講座」を実施。今年度、砺波市環境保健衛生協議会で開催された。

期日 令和5年7月24日(月)
会場 砺波まなび交流館
参加者 50名
講師 許鳳浩氏 (医療法人ホスピー・統合医療研究所副所長)

講義 「未病対策で健康寿命を伸ばそう!」
「体質と体調の微調整は日頃から」

○健康と寿命
・生活習慣と寿命短縮日数
・動脈硬化を防ぐには
・免疫力をアップするには
・高齢者に適した運動「八段錦」について

参加者は、東洋医学に通じた先生のお話を真剣に聞いてメモをとるなど意義深い研修になりました。
また、地域の健康づくりに参画するボランティアの方々には、「やはり食事、運動、休養が大切」、「私たちの活動の基本は健康づくり。市民の方の健康づくりに大切な活動」などの声が溢れておりました。



出前健康講座の様子

環境巡視員等研修会(県西部)

日時 令和5年9月20日(水) 9時45分～13時

場所 射水市海老江海浜公園

参加者 県西部地区巡視員・市役員・市事務局他59名

研修1 「スポGOMI」体験

講師 一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ

小西 和孝 先生

① ルール説明

ゴミは、「燃える、燃えない、ビン・缶、ペットボトル、たばこの吸い殻」に分別し、重量をポイントに換算して順位を競う。

② 選手宣誓

射水市環境衛生協議会 串田 伸男会長

③ 作戦会議

チーム毎

④ 「ゴミ拾いは、スポーツだ！」の発声で、競技スタート

1チーム5人の11チームで競技する。競技時間1時間。

⑤ 終了後、計量・集計 全国平均を大きく上回る成果があった。

⑥ 結果発表・表彰式

1位小矢部市、2位氷見市、3位射水市C 副賞あり

1位 小矢部市チーム 32・23kg 4・112Pt

優勝チームのコメント「作戦は重いものを拾おうを合言葉に・・・」

⑦ 再び「ゴミ拾いは、スポーツだ！」の発声で、記念撮影

スポーツとしての位置づけがやる気を刺激し、ゲーム感覚でゴミ拾いを楽しむことができた。この事業のねらいである「ゴミを拾うことで、ゴミを捨てなくなる」効果を実感しながら終了した。



研修2 「マイクロプラスチック回収」体験

講師 エコライフを楽しむ市民の会高岡

砂ふくい「プラネット」(不要になったもみ殻ネットをリメイクしたものを)を利用して、マイクロプラスチックを回収してみる。

この海岸で回収されるマイクロプラスチックの量は比較的に少なかった。

ちなみに本日の参加賞は、日本で回収した海洋プラスチックを原料にした再生樹脂のボールペン(Ocean Plastic)でした。

※「スポGOMI」実施の用具「プラネット」は貸し出し可能です。

問合せは、県連合会まで(080-869815685)



令和5年度役員

【会長】	五十嵐 務	(富山地区富山市)
【副会長】	麦島 紀長	(富山地区富山市)
〃	林 信義	(高岡地区高岡市)
〃	尾田 喜則	(県東部地区A入善町)
〃	吉田 裕造	(県東部地区B滑川市)
〃	田中 賢次	(県西部地区A氷見市)
〃	浦出 義一	(県西部地区B南砺市)
【専務理事】	浦出 義一	(副会長兼務)
【監事】	杉本 一雄	(富山地区富山市)
〃	浅生 修	(県東部地区魚津市)
〃	白沢 富治	(県西部地区小矢部市)
【常任理事】	白江 祐一	(富山市)
〃	長澤 邦男	(富山市)
〃	山森 潔	(富山市)
〃	村上 公生	(富山市)
〃	山崎 清志	(富山市)
〃	田中 昌明	(富山市)
〃	駒井 義次	(高岡市)
〃	蔵 伊佐夫	(高岡市)

編集後記

令和5年度の会報をお読みいただき有難うございます。昨年度に引き続き会報の編集という大役を賜り、身が引き締まる思いでございます。

さて、新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行され、「いつも」の生活が始まった矢先に、猛暑が我々を襲いました。日中の気温は40℃に迫り、夜も熱帯夜と体を休めることができず、体調管理に苦慮された方々が大勢いらっしやることと思います。

また、7月には富山県初となる線状降水帯が発生し、尊い命が犠牲になる等、大きな被害がもたらされました。こんなにも身近に災害が訪れることになることは、驚きとともに、どこか他人事と考えていた自分もあり、防災対策は「し過ぎることはない」と意識を改めました。

温暖化による気候変動が叫ばれて、数十年、個人的には暑さや洪水等の気候の変化が身近に起きており、我々が日々行っている環境美化や防災対策を含めた衛生生活が温暖化を食い止める揺るぎない歩みになるのは間違いありません。「小さなことからコツコツと」を今年度の目標に頑張りたいと思います。(村上記)